

総記・一般

飯島宗一著

学窓雑記 I

四六判・412 頁・2,000 円

元名古屋大学長が在任中の多忙な公務の傍ら、1982 年から 86 年にかけて信濃毎日新聞の夕刊コラム「今日の視角」に連載したエッセイ 195 篇。21 世紀に向けて、平和、文化、科学、医学、教育等様々な分野で現代が提起する諸問題と故郷信州への憧憬を、明晰な文章で綴った一千字の世界。
〔1987〕978-4-930689-67-2

飯島宗一著

学窓雑記 II

四六判・320 頁・2,000 円

淡々としかし鋭く現代を見据える元名古屋大学長の好評エッセイ第二弾。〔目次〕大学の自由／勉強と学問／モーツァルトと人間科学／外国とつきあう法／アメリカと日本の間／中国教育事情／国有鉄道八十年／SDI とアメリカの科学者／超電導と超低温／岡倉天心の終焉／老人入門……
〔1989〕978-4-8158-0116-8

飯島宗一他著

名古屋大学公開講座 1

現代技術を考える

—人間と社会はどう変わりつつあるか—

〔品切〕四六判・352 頁・1,600 円

〔目次〕平和とテクノクラシー（飯島宗一）／歴史における技術（神保元二）／エネルギー技術の歴史的発展とその限界（河宮信郎）／産業革命と想像力—怪物としてのテクノロジー（榎本太）／現代国家とテクノクラシー（田口富久治）／発展途上国への技術協力（飯田経夫）……
〔1983〕978-4-930689-08-5

若林慎一郎他著

名古屋大学公開講座 2

現代のコミュニケーション

—情報・適応・社会—

〔品切〕四六判・268 頁・1,800 円

〔目次〕乳幼児のコミュニケーション（若林慎一郎）／親子のコミュニケーション（久世敏雄）／教育における共感と離反（田畑治）／教育の場におけるコミュニケーション（加藤雄一）／成人社会のコミュニケーション（辻敬一郎）／日本人のコミュニケーション（大坪一夫）……
〔1984〕978-4-930689-20-7

北川隆吉他著

名古屋大学公開講座 3

現代に生きる

—人間は自らを管理できるか—

四六判・244 頁・1,800 円

〔目次〕情報の氾濫そして文化の貧困（北川隆吉）／教育システムと高学歴社会（潮木守一）／企業と環境適応（岸田民樹）／国・自治体における情報管理と市民生活（貝沼洵）／日本の政治の風土とネオ・コーポラティズム（小野耕二）／現代青少年の諸問題について（内山道明）……
〔1985〕978-4-930689-37-5

青木國雄著

医外な物語

四六判・426 頁・2,427 円

信長、秀吉、家康、ナポレオン、チャーチル等々、歴史をつくった著名人の病いと死にまつわる逸話、裏話、秘話を疫学の権威が3題断にしたてて軽妙な筆致で描く 99 話。深い学識と暖かい人柄が滲みてた心打つ読物である。
〔1990〕978-4-8158-0131-1

名古屋大学史編集委員会編

名古屋大学五十年史〔部局史一・二〕

〔品切〕 菊判・総頁 1900 頁・セット価 9,709 円

本書は、その誕生から現在まで、名古屋大学 50 年の発展の足跡を映し出す初めての正史として編纂された。本部局史においては、26 部局の研究・教育・制度・組織・人事等の沿革、管理運営上の諸事項が客観的・微視的に記述されていて、後続の「通史篇」への展望を与える。

〔1989〕 978-4-8158-0126-7

名古屋大学史編集委員会編

写真集 名古屋大学の歴史

—1871～1991—

A4 判・272 頁・4,854 円

明治 4 年開設の仮病院と仮医学校を源流とする前身の時代から現在まで、120 年の発展の足跡を映し出す初めての歴史写真集。学問研究・学園生活・重大事件等そして自由闊達な校風の形成と時代の変遷が、学内の総力を結集して蒐集された六百数十点の写真資料に凝集されている。

〔1991〕 978-4-8158-0172-4

名古屋大学史編集委員会編

名古屋大学五十年史〔通史一・二〕

菊判・総頁 1816 頁・セット価 11,650 円

「部局史編」「写真集」に続き、名古屋大学創立五十周年を記念し、学内の総力を結集して編纂する正史完結編。明治期から今日までの激動する社会状況の中で、一つの組織体としての大学がどのように成立・発展してきたのかを、国家政策との関わりを含め、膨大な資料に基づいて伝える。

〔1995〕 978-4-8158-0270-7

井口潔／藤澤令夫／村上陽一郎／飯島宗一著

科学と文化

—人間探求の立場から—

四六判・184 頁・1,800 円

科学・技術から医学など人間の営みの在り方と文化との関わりを基本から問い直し探求するために開かれたシンポジウムの記録。医学、哲学・科学史の泰斗が語る。〔目次〕 文化的生物としての人間と現代の危機／価値としての科学と文化／人間の営みとしての科学／医学の立場から

〔1993〕 978-4-8158-0206-6

近藤哲生／林上編

東海地方の情報と社会

A5 判・270 頁・4,000 円

社会学、地理学、歴史学、生物学、社会経済史学、心理学等、専門を異にする名古屋大学のスタッフが、「情報」と「地域社会」をキーワードにして、東海地方の自然的・社会的・文化的構造と特質を様々な角度から明らかにする。教養部の情報文化学部への改組に伴う共同研究の成果。

〔1994〕 978-4-8158-0227-1

平生鈺三郎著 安西敏三校訂

平生鈺三郎自伝

四六判・502 頁・5,500 円

東京海上保険専務、日本製鉄会長、広田弘毅内閣の文部大臣、大日本産業報国会初代会長、甲南学園の創設者等々を歴任、明治・大正・昭和の三代に亘り実業界・政界・教育界に活躍して特異な軌跡を残し、近年の戦時統制経済への関心とともに注目される人物の波瀾に富んだ前半生の自伝。

〔1996〕 978-4-8158-0277-6

加藤延夫著

世紀のはざまにて

—医学徒の回想と展望—

四六判・366 頁・2,500 円

20 世紀から 21 世紀への転換期に、医学・医療の分野では、病苦からの解放と心豊かな生の享受という医の原点への回帰が課題となり、我が国の大学では多様化、個性化に向けた組織機構改革と教育改革が進行した。これらの動きを鋭く見据えてきた元名古屋大学総長の随想集。

〔1996〕 978-4-8158-0289-9

名古屋大学編

名古屋大学の歴史 1871～2019 [上]

A5 判・284 頁・2,700 円

「名大」に歴史あり——。どのように生まれ、変化してきたのか。教育・研究・大学生活・キャンパスの変遷を、組織の沿革とともに一望できる通史。上巻では、1871 年の「創基」から、帝国大学の時代、新制大学としての出発を経て、1980 年代までの歩みをたどる。写真も多数掲載。

[2022] 978-4-8158-1063-4

名古屋大学編

名古屋大学の歴史 1871～2019 [下]

A5 判・320 頁・2,700 円

1990 年代以降、大きな変化を遂げた「名大」。その複雑な全体像を初めて描き出す。大学改革とは何だったのか。なぜノーベル賞受賞者が続出したのか。大学はどこへ向かうのか。下巻では、教育・研究体制の大改革から、国立大学法人化を経て、「東海国立大学機構」設立までを跡づける。

[2022] 978-4-8158-1064-1
